

アジア車いす交流センタータイランド 「政岡基金」通じ車いすなど寄贈 夫人が亡き夫の遺志を継ぐ

夫人が亡き夫の遺志を継ぐ

財団法人アジア車いす交流センタータイランド(WAFCAAT、ワフカッタ)は1999年、自動車部品メーカー大手デンソーの創立50周年を記念して設立された非政府組織(NGO)。車いすや教育の支援を通じ、障がいのある子どもが社会で自立できる環境づくりを目指してタイで活動している。現在、理学療法士が常勤し、一人ひとりの障がいの程度や身体大きさに合わせた車いすのシーティング(姿勢保持サポート)にも取り組んでいる。

また、タイには肢体不自由児のための特別支援学校が全国に3校(公立2校、私立1校)しかなく、車いすの子どもにとって特別支援学校に通うことは現実的な選択肢とはなっていない。そこで、学習には支障のない車

いすの子どもが地元で通常の小中学校へ通い、仕事に就いて自立することを目標とした障がい児教育支援も展開している。さらに車いす支援や教育支援を受けている子どもにも必要に応じ学校や自宅にバリアフリーの部屋(教室、トイレ、スロープ、手すりなどを設置し、安全かつ安心して生活や勉強ができるようサポー

トしている。このWAFCAAT設立に大きく貢献した故・政岡勲(いさお)氏が2015年1月30日に急逝してから間もなく3年経つ。政岡氏は40年以上デンソー(現地法人)に勤務。副社長在任中にWAFCAAT初代事務局長を務めた。デンソーを退職し顧問に就任してからもWAFCAAT副理事長として障がい児支援活動を支え続けた。

そして、バンコク市内の寺院で5日間に亘って執り行われた葬儀でいただいた香典の一部を遺族がWAFCAATに寄付した。16年11月、政岡基金の初事業としてカンチャナブリ県で車いすを寄贈。17年12月16日にはチャチュンサオ県特殊教育センターで6名の障がい児に対し7台の車いす・歩行器が贈ら

れた(写真)。この式典に出席した故人の夫人で政岡基金の発起人でもある政岡絢子(じゅんこ)さんは、「3年前に主人が亡くなった時はただ悲しいだけでした。今も寂しい気持ちは変わりませんが、このように政岡の名が基金として残り、タイの障がいのある子どもやご家族のお役に立てていることを今は嬉しく誇りに思います。主人もこの素晴らしい式典の様子を天国から見て、きっと喜んでいてと思います」とスピーチ。出席した子どもやご家族に記念品と励ましの言葉を送った。

現在、WAFCAATは政岡基金(約263万円)を定期預金で管理。年に1回、利子や新規の寄付金を車いすの贈呈費用に充てるなどして支援活動を行っている。

